



理事長就任のご挨拶

理事長 太田 勝造

2021年（令和3年）6月18日開催の新理事による理事会において新理事長に指名されました太田勝造です。私は何事にも非力ですので、伝統と実績のある公益財団法人民事紛争処理研究基金のために如何ほどの貢献ができるか、甚だ心もとないところではございますが、本基金の発展と事業の継続拡大を目指して努力をさせていただき所存でございます。なにとぞ、皆様のご支援とご協力を賜うことができますよう、お願い申し上げます。

私自身、本基金の研究助成事業のお世話に何度かなり、拙いものではあれ、おかげで研究業績に結実させることができました。こうして研究者の端くれとしての人生を歩むことができておりますのも本基金のお陰だと感謝しております。

私の研究分野は曖昧でして、「面白ければ全て良し」をモットーとして下手の横好きを続けております。合理的意思決定理論、法と経済学、社会調査・統計分析、交渉理論、進化論、ベイズ・モデリング、AI（人工知能）、脳神経科学などを、民事紛争処理を巡る領域に応用しております。とは言え、蝸牛の歩みで、還暦を過ぎて山上億良の「土（をのこ）やも空（むな）しかるべき 万代（よろずよ）に語り継ぐべき 名は立てずして」の悲哀を感じするような状況となっております。

このような私が本基金の理事長に就任して良いものか、躊躇いの気持ちが強かったことは事実でございます。しかしながら、本基金の創設者である新堂幸司先生を指導教授として研究者人生を開始した者としては、理事の先生方のご推薦を賜った以上、本基金のために粉骨碎身するべきであると考えているに至った次第です。

二一世紀も五分之一が過ぎ、百年に一度のパンデミックが世界を覆い、インターネットとAIが人類の文明に大変革を迫っております。人と人の紐帯が世界中にシームレスに連結すると同時に、地理的分断とは異質な次元の分断と分裂が生じてきております。モノの世界としてではなく、意味の世界における対立と孤立が進んできていて、この地球を共有する人々がまるで別々の宇宙に住んでいるように思われることがしばしばです。市場や国民国家、民主主義など、これまで当然の前提ないパラダイムとされ、それらのもたらす問題への弥縫策で何とか済まされそうに思えたことが、根本から揺らぎ始めているようです。それに伴い、所有権、契約、裁判などの概念も、さらには人や社会の在り方も根本から変革を迫られているのかもしれない。少なくとも、個人や国民国家を単位としてものを考えることは時代遅れとなりつつある気がします。

本基金に焦点を絞っても、「民事」とは、「紛争」とは、「処理」とは、そして「研究」とは、それらは何なのか、全てのレベルで新しい発想と枠組みが必要となってきたと思われる。本基金の活動を通じて、法と紛争解決の分野でのパラダイム・シフトが社会的に望ましい方向で進んでゆくことを、ささやかながら支援することができればと思います。皆様のご支援とご協力をお願いして、巻頭の言とさせていただきます。